

九重縦走（リーダー養成山行）

【報告者】上野

【日時】2007年11月17日、18日 【天候】快晴、曇り

【参加者】石上、稲田、立石、古賀、海崎、坂本、若原、藤末、筋田、
上野 10名

コースタイム

【1日目】8:30 基山 PA 集合 = 10:50 赤川登山口発 = 12:20 扇ヶ鼻
= 13:30 星生山 = 14:40 北千里 = 15:40 坊ガツル

【2日目】8:20 坊ガツル発 = 9:50 白口岳 = 10:30 稲星山 = 12:30 赤川登山口

報告

陽が西の山の端へ沈み、九重高原に夜の帳が降りる頃、坊ガツル避難小屋に、そつと静かに灯がともる ~Night in 忘我津留~ ここは、都会の雑踏に疲れた男女が集う大人の社交場（ナイトカフェ）である。

今宵もひと時の癒しを求めて、旅人が古びた木戸を叩く。

このナイトカフェのマスターF 末氏は、晩秋にもかかわらず、何故か半ズボンである。理由を尋ねても、ただ微笑み返されるだけ・・・~Night in 忘我津留~

マスターは、旅人達の冷えきった体を、アイリッシュコーヒーで温めてくれる。

コーヒー豆、ミルク、砂糖（陶器瓶入り）、ウイスキー、ドリッパー 全ての道具は、マスター自らボッカして登る。

さらに、それでは飽き足らず、テントとポールまでボッカをしたいと目配せするマスターに、旅人達はついつい甘えてしまう。

結局マスターは山のような荷物を背負い、今日も高原のカフェへと向かう・・・

~Night in 忘我津留~ 高原のカフェ、~Night in 忘我津留~（*1）

（*1）2度繰り返し

さて、晩秋の九重を楽しむ一行が、赤川登山口を出発したのは、11月17日、10:50AMである。ここから緩やかな斜面をゆっくりと登り、扇ヶ鼻（1698m）へと向かう。天気は快晴。後ろを振り返ると、遥か遠くに阿蘇、祖母の稜線がくっきりと浮かび、爽快である。中でも、根子岳のギザギザには熱狂的なファンがいらっしゃるようで、興奮を抑えつつ感慨深げに眺める表情を目にすると、なんだか自分もいつか登りたい気持ちになった。



扇ヶ鼻に12:20着、小休止後、星生山へ向かう。途中、九重連山の素晴らしい眺望を楽しみながら、星生山頂(1762m)に到着。山頂も素晴らしい眺めだったが、少し肌寒さを感じた。マスター藤末君を見ると、600円のカップの袖から汗がお茶をこぼしたようにぼたぼたと垂れている。じっとしていても暑いらしく、ついにカップの両袖をびりびりに破いて、「やっと通気性がよくなった」と話していた。ゴア博士が聞いたら泣きそうなコメントだなあと思いながら、北千里へ下る。

硫黄山の白煙を前に記念撮影後、少し下ると、法華院温泉に到着。トイレ休憩を済ませ、自販機で今夜のビールを購入。1200mを越す場所にもかかわらず、ヤードームよりも安くビールが手に入ることに感動!

坊ガツルに着くと、先着者は一組だけで、しかもテント泊の様子。他にパーティーがないのならば、避難小屋の中に泊まるうということに決定。

マスター藤末君がせっかくボッカしてくれたテントも活躍の場が無くなってしまい残念だったが、その代わりに、翌朝の撤収を気にせずに、ゆっくり夜遅くまで宴会することができた。

避難小屋の夜は、闇鍋やアイリッシュコーヒーが振る舞われ、大いに盛り上がった。

翌朝、一日目とはうって変わって、曇り空。気温は2で、風も強いため、体感的にはかなり寒く感じた。

カプチーノとフレンチトーストの朝食(!)を楽しみ、8:20AM 坊ガツル出発。

法華院を通り過ぎ、急斜面を登ると白口岳山頂に到着。途中、もの凄い横風に飛ばされそうになったが、山頂付近には早くも霧氷が見られた。

その後、稲星山山頂から南登山口方面に下り、途中で南斜面をトラバースして、赤川温泉に到着。山頂の霧氷が冬を思わせたのに対し、赤川温泉周辺は、標高が低いことと、山群の南斜面に位置することから、紅葉がまさに見頃で秋の気配だった。

ぬるめの温泉でゆっくりと疲れを癒して、福岡に戻った。



【冬の訪れエビノシッポ】



【主役のマスターは冬靴に短パン!】